

<麦類の栽培ポイント>

本年産は播種時期に好天が続いたため出芽・苗立は順調でした。しかし、12月中旬～1月上旬にかけて気温が平年より0.4℃低く、降水量が平年比23%と低温・乾燥状態にあったことから、生育はやや遅れています。

2月は気温が平年より低く、降水量は平年より少ないと予想されます。気象の変化や生育の状況を十分に確認し、高品質麦の安定生産に向けて次の対策を実施しましょう。

1 麦踏み

寒冬で少雨な年では、分げつを活発にするとともに、根張りを深くし耐寒性を増大させるほか、乾害を防ぐ効果があります。

加重は、人の体重くらいが適当です。また、降雨・降雪後で、ほ場が水分を多く含んでいる時や凍結層がある時は根張りが悪くなる危険があるため、行わないようにします。

時期と回数は、10～14日間隔を空けて、**莖立ち期（例年3月上中旬）**までに3回程度行って下さい。

2 排水対策の徹底

麦は全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。時々排水溝を点検し、必要に応じて、溝さらいを行いましょ。まだ排水溝を設置していないほ場は、3月以降の降水量の増加に備え、早期に設置し排水対策を実施しましょ。土壌を乾きやすくすることで、麦踏みも行いやすくなります。

3 雑草防除

雑草の発生状況を観察して、除草剤を散布しましょ。また、毎年同じ成分の薬剤を使用すると、特定の雑草が増えやすくなりますので、使用する薬剤をローテーションしましょ。

麦類の防除農薬（例）

令和4年1月13日現在登録内容

農薬名	適用雑草名	対象作物	使用時期	使用回数
ハーモニー 75DF水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	小麦	は種後から節間伸長前まで (スズメノテッポウは、5葉期までが散布適期) (一年生広葉雑草は、穂ばらみ期まで(但し、 収穫45日前まで))	1回
		大麦	は種後から節間伸長前まで (スズメノテッポウは、5葉期までが散布適期)	
エコパート フロアブル	一年生広葉雑草	小麦	小麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2～4葉期、 ヤエムグラ2～6節期)但し、収穫45日前まで	2回以内
		大麦	大麦節間伸長開始期まで(広葉雑草2～4葉期) 但し、収穫45日前まで	
アクチノール 乳剤	一年生広葉雑草	麦類	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	2回以内

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

(裏面あり)

<スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）に注意しましょう。>

近年の暖冬傾向により、南アメリカ原産のスクミリンゴガイの越冬数が増えています。足利市では農作物への大きな被害はみられていませんが、去年は、市南部のほ場や用水路で生息が確認されました。

耐寒性はそれほど高くはなく、-3℃で、ほとんどの個体が3日以内に死亡するとされています。今後の気象条件によって生息数が増加するおそれがあるので、注意が必要です。

1 特徴

○水稲への被害について

小さな水草などを食べますが、大きな植物は食べられません。移植直後から5葉期になる頃までは水稲を食害する可能性があります。

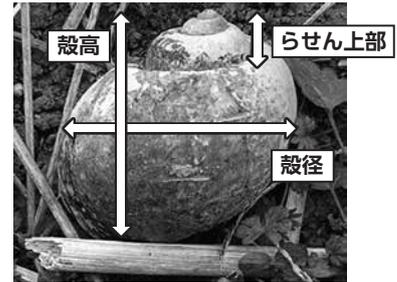
○ピンク色の卵塊

卵には毒がありますが、触っただけでかぶれたり、皮膚から染みこむことはありません。

○成貝の殻高は2～7cm

ほかのタニシ類と比較して、らせん上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じです（右図参照）。

貝には、寄生虫がいるので、素手では絶対に触らないで下さい。



2. 防除対策

発生が確認された場合には、以下のような防除対策を行きましょう。

時期	対策	方法と効果
冬期	耕うん	寒さに当てたり、ロータリーの爪でつぶしたりして殺貝する。
移植前	水路からの進入防止	水口に網を設置して水路からの進入を減らす。
	水路での殺卵・捕殺	濃いピンク色の卵塊は水中に払い落とし駆除する。 黒～白っぽい卵塊は押しつぶし駆除する。
	箱施用	パダン粒剤4を箱施用して、忌避作用により被害を減らす。
移植時・移植後	中苗移植	食害されにくい4葉期以上の中苗を植え付けることで、被害を軽減する。
	薬剤散布	田植直後にスクミリンゴガイを見つけたら薬剤を散布して殺貝する（スクミノン等の本田散布）。
	浅水管理	浅水にするとスクミリンゴガイが水稲を摂食できなくなるので、6月中は水深を4cm以下にする。 この時、田面に凹凸があると、水がたまったところに貝が集まるので、代かきは丁寧に行う。

※ パダン粒剤4・スクミノンは、令和4年1月13日時点の登録内容です。農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※ 詳しい情報は、農林水産省公表『スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(移植水稲)』をご覧ください。

<肥料情勢について>

昨年末から続く国際的な原料市況の急激な上昇が大きな要因となり価格が高騰している状況が続いております。今後、期中改定により肥料価格が値上げとなる可能性があることにつきまして、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

また、欧米での需要増加に加え、主な原料産出国である中国が国内需要を優先する政策を示したため、世界的に原料が逼迫しており、メーカーでの製造が出来ず未入荷や代替えとなる肥料が一部発生しております。

組合員の皆様にはご不便、ご迷惑をお掛けすることとなりますが、ご理解下さいますようお願い申し上げます。